

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 西の家)

事業所番号	0670101476		
法人名	有限会社深町コーポレーション		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	山形市深町一丁目9番14号		
自己評価作成日	平成23年 7月 22日	開設年月日	平成15年 11月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のペースや希望に沿った日常生活が送れるよう心がけている。
 外食やおやつ作り等、楽しみを持てるようなイベントを取り入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
 (公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 23年 8月 22日	評価結果決定日	平成 23年 9月 6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の呼びかけに職員全員と利用者も加わり、今年は「人と人 気持ちつながる はなみずき みんなの笑顔 咲かせます」という新理念を作り上げ、新たな気持ちで次のステップに向けて日々前進を目標に取り組んでいます。敷地内中庭を挟んで併設の小規模多機能型居宅介護事業所「はなみずきの家」、グループホーム「西の家」「南の家」を自由に行き来しながら思い思いに過ごし、利用者は「生活する主体者」スタッフは「生活のパートナー」として関わり、互いに寄り添いながらその人らしくゆったりとした時間の流れが感じられる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年是新理念をスタッフと共に考え実践につなげられるよう共有している。	職員と利用者が一緒に作り上げた新理念を念頭におきながら実践に繋がるような取り組みをしている。笑顔で接すると笑顔が鏡のように返ってくるケアを心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員の方からの助言の元、挨拶回りを通じ事業所の説明を行い、以前より日常的に交流する機会が増えている。	地区の役員改選があり、新しい方に事業所をよく知ってもらう為の働きかけをしている。昨年から始めた事業所主催の「夏祭り」は好評で、地域の人にも参加を呼びかけ、職員のアイデアを出し合い定着させたいと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に限らず、利用者の知人の方や、通りがかった方からの相談を受けたりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や情報交換を行い、話し合いを通じて会議のメンバーより意見をもらっている。サービスの向上に活かすようにしている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催し、活発な意見交換があり充実した会議となってサービス向上に反映させている。運営推進会議を理解してもらおうと、南沼原地区の社会福祉協議会が中心となり広報活動が行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時は、電話や直接相談に行く等して対応している。	市担当者とは顔馴染みの関係で、相談事の対応など連携を図っている。毎月2名の介護相談員の来訪があり、利用者との会話も弾み気づき等もサービスに活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	禁止の対象となる行為については、職員が理解し一切行っていない。玄関の施錠も基本的にしない。が、日々の利用者の状況に合わせ、安全面で必要と判断した場合にのみ施錠する事がある。	利用者の安全を第一に考え、行動パターンを把握し、何をしたいかそばに寄り添いながら関わっている。止むを得ない場合を除いて日中は玄関を開放し、安心して暮らせるように工夫しながら拘束しないケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員研修を実施し、虐待に関する知識を共有し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や資料提供を含め、学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不安が残らないよう、十分な説明を行った上で契約・同意していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時意見や要望を受け付け、定期的に運営推進会議を開き運営に反映させるよう努めている。	面会時や利用者、家族等が出席する運営推進会議で意見・要望を聞く機会を設け、出来る事、出来ない事を説明し互いに納得し合える関係作りに努めている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少なくとも月1回のペースでユニット別の会議と、ユニットリーダーの会議を開いている。現場の声、状況を確認し職員の提案も反映しやすい環境になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員一人一人の思いや考えを把握するため常に情報収集している。施設の将来のビジョンを伝えたり、必要であれば配置転換を迅速に行う等して良い職場環境を作るため工夫している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者を通じまたは職員と日頃から接する中で力量を把握している。その上で、研修への参加を促し職員の資質向上に努めている。	管理者は職員が楽しく働けるような環境作りに配慮し、利用者や職員の笑顔が見られる雰囲気作りを大切にしている。配置替え、資格取得奨励によるレベルアップを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修の機会で他事業所へ訪問し、取り組みや特色等多くを学ぶようにしている。	県グループホーム連絡協議会に加盟している。研修会や交換研修に積極的に参加し、それらの情報を活用してサービスに反映している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の生活リズムを保ちつつ、他者との交流や毎日の日課での混乱が軽減できるよう、本人と会話傾聴し安心を得られるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活状況を面会時等で情報交換をこまめに行い、要望や気に掛かる事がないか伺い話を傾聴している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時等の情報交換において、利用者や家族の要望が満たされるような対応ができるよう、多方面からの提案を行うよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の意志を第一に考えている。日常生活を共に作り上げている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・本人との橋渡し役となり家族と共に支え合う関係を築くようにしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との面会は、定期的にされている方もおり喜ばれている。馴染みの友人も面会され各居室で談笑されている。電話も来られ、手紙も届き本人も笑顔で楽しみにされている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が良好になるよう、常に気を配り働きかけている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や暑中見舞等のやり取りをしたり、必要があれば連絡を取り合って相談を受けたり対応したりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の声に耳を傾け、希望・意向の把握に努めている。また、日頃の気付きをスタッフで話し合い、本人本位の支援ができるよう努めている。	利用者は何を望んでいるかその思いを大切に、意思疎通が困難な方からは表情やしぐさ等から汲み取るようにして、本人の視点にたったケアができています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の語りかけでその人の昔の話等を聞く等してその人の事を知る努力をしている。これまでのサービス利用時の経過等は記録に残し、スタッフが共有・把握するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人がその時やりたい事ができるよう、その時の状態に沿った支援をするよう心がけている。家事も可能な限り利用者で行うようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限り家族・関係者と話し合い計画作成している。そうでない場合は、本人が望む生活ができるようスタッフで話し合いアイデアを出し合っている。	利用者のしたい事の声を主体に考え、ニーズに応えられるように家族等の意向も考慮し、職員・主治医の意見やアイデアを反映させた個別の介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録を残し、情報を共有できるようにしており計画作成に活かしている。ただ、記録できていない事柄もあると思われ改善に努めたい。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>日頃から近所の「ヨークベニマル」等へ買い物に出かけている。また折りを見て近くの観光地等へドライブに出かけ、楽しんでもらえるよう支援している。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所と連携を図りながら、本人の状態・家族の希望も含め通院・往診の支援を行っている。また、受診後は家族と互いに結果を報告し合い情報の共有を大切にしている。</p>	<p>受診時は家族等の同行もみられ、これまで通り職員付き添いを中心に行なっている。急変時に備えてマニュアルを作成しており、常にリスクが伴う事を考慮し、落ち着いて対応が出来るように職員間で共有している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>スタッフは常に新たな情報を看護職員に伝え相談している。個々の利用者の健康管理や通院等看護職員と連携を図り支援している。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した際は家族の意向に沿い、早期退院できるよう支援している。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族との話し合いで方針を共有し、医療機関とも連携を図りチームとして支援に取り組んでいる。</p>	<p>開設当初と比べ、事業所としての対応力の変化を感じている。家族とは状況に応じた繰り返し話し合いの場を持ち、医療関係者等との連携を密にしながら取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体学習会を通じ対応策をマニュアル化したり、年1回消防署の方を講師に招き、応急救護講習を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	対応策をマニュアル化したり、年2回消防署の方を招き避難訓練を行っている。何かあった際は地域の方に連絡し手伝ってもらえるような体制は整っている。	運営推進会議の場で町内会長自ら「地域ぐるみの防災を考えていかないと」の声が聞かれ、これまでの避難訓練への声かけから一歩前進した様子がかがえる。近くにある公園が地域の避難場所となっており、利用者も訓練に参加している。		今回の東日本大震災を踏まえて、事業所と地域が一体となった訓練を目指すことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者である利用者を敬った言葉遣いや対応を忘れないよう心がけている。	利用者の誇りや日々の生活の中で得ている満足度を、各自の表情、声の高低、気持ちを込めた挨拶等で確認し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	折々で本人の希望を伺い、職員の押し付けなどがないように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日の状態や気分に合わせて、食事の時間をずらすなどして個別の対応をとり、職員の都合を押し付けないようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の伺いながら、着替え選びや整容の支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には食事、おやつ作りに参加して頂いているが、時間的な問題から頻度は多くない。片付けは多くの利用者が協力して手伝って下さっている。	出来ること、やりたい事を見守りながら、食事の準備や片付け、おやつ作り等をしている。外食では、日頃摂取量の少ない方が気分転換もあってかしっかりと全取る光景も見られる。出かけることで身仕度をきちんとし、おしゃれに気を配る面もあり、食への楽しみが感じられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量のチェックをし、水分量の確認をしている。一人一人の嗜好を把握し提供しながら水分・食事摂取の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別に歯磨き・うがいの声かけ・介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに添った時間帯に声かけ・誘導している。退院後オムツ使用の利用者も日中リハビリパンツでトイレ誘導し以前のようにトイレでの排泄に向けて取り組んでいる。	排泄というプライベートな部分では、利用者の嫌な事はしない、「また」という失敗を口にしない事を共有している。半自立の利用者が多い中で、環境を含めた清潔保持等を職員が常に意識し、さり気ない誘導で支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分量を確認し、軽体操したり時期によっては散歩での活動に取り組んでいる。個別でDrと相談し下剤の活用をしてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日を決めず、その日その日で個人に入浴したいか否か等希望を伺いながら行っている。	個浴対応で家族の事や家がどうなっているか等、不安から出る本音がある時々で聞かれる。入浴時も、肌に気を使う方は自分専用のシャンプーその他を準備したり、楽しい入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体温・室温調整に努め、個人の様子をみて声かけをし休息できるよう行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングし、いつでも閲覧できるようにしている。内服薬変更時はノートに書き申し送りと一緒に周知している。時には看護師と相談し体調変化の気付きに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆歌が好きなので、歌う機会が多い。また、「食」についても好きなので、手作りおやつや中庭でのお茶会も行っている。個別では買い物、草取り、食事作り等の支援を行っている。食器拭きや洗濯干しと日常的に家事支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーへは個別に買い物へ外出している。ドライブで隣町へ花を見に行ったり、外食でも店員の方と事前に連絡を取り、スムーズに外出支援が出来るよう行っている。	すぐ隣りには大型店舗があり、日々の買い物を職員と共に楽しみながら出かけている。冬期間の外出として、通院の送迎時に遠回りしてのドライブや、外気に触れ、足元に気をつけての外出支援となっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者が精算を行うという事を遠慮してしまっている。一人の利用者は自分の財布を所持しているため買い物の時は精算して頂けるよう努めている。たいていの方は家族が管理しているケースが多い。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については本人から家族へ電話する事は少ないが、家族から「本人に代わって下さい」と要望がありお話している。レクリエーションで絵葉書や年賀状を手作りし、家族や知人の方へ送ったりしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	加湿器やエアコン・すだれ等時期に合わせて活用し湿度管理している。施設内は生花を飾ったり、季節に合った紙の塗り絵折り紙を皆で作って季節感や色彩を取り入れ、明るくなるような雰囲気作りを行っている。	食堂、ホールから中庭が見える。ウッドデッキの上を往来できて、四季折々の木々や花々に目を向けたり、家庭菜園を楽しみながら暮らしの場が整っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室の中で、仲のいい利用者同士が集まって談笑している姿がみられる。お茶の時等集まる際その日によって一人で過ごしたい方は時間をずらしたりする等して対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自持参されたタンスや机、人形を飾り、健康器具と使い慣れた物に囲まれ生活を送っている。また、孫の絵や家族からの絵や写真・手紙をはって、家族との繋がりを大切にしている。	居室前には、自分の部屋と確認できる手作り作品と名前が掛けてある。家族等との絆を大切に、室内に思い出を貼る掲示用ボードが置かれ、それぞれ個別に応じた工夫や配慮が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、共用空間は安全に配慮し、それぞれが快適に生活できるよう努めている。		